

— 令 和 8 年 度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令 和 8 年 7 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

令和8年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和8年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜）の教科別状況	10
国語	10～11
社会	12～13
数学	14～16
理科	17～18
英語	19～20

令和8年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ

(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】学力検査の実施結果

平均点の推移						
	国語	社会	数学	理科	英語	総合
令和6年度	21.7	19.0	18.3	19.9	22.9	101.6
令和7年度	23.4	22.2	18.8	14.0	18.6	97.0
令和8年度	25.0	23.1	24.4	22.3	21.9	116.8

【Ⅱ】学力検査の教科別状況

結果の分析	
国語	・行書の基礎的な書き方、短歌を含む800字程度の短い文章における情報の取り出し、歴史的仮名遣いに関する問題の正答率は非常に高い。 ・文章中の情報を整理して内容を把握し、自分の考えを文章で表現することに課題がある。 ⇒2000字程度のやや長い文章の情報を整理して読む活動を通して、内容を捉える力を身に付けさせることが重要である。また、「書く」指導においては、主語を省略せず、主述の関係に注意するなど、自分の考えが的確に表現できているかを生徒自身が見直したり、教師がフィードバックをしたりすることで、他者に伝わる文章表現力を養うことが必要である。
社会	・基本的事項について一定の定着がうかがえ、単一の資料の読み取りは概ねできている。 ・分野ごとの用語の整理ができていないため、知識を活用した思考や複数の資料を関連させた思考ができていない。また、問いの意図を正しく捉えられていないことから、情報を正確に読み取ることや、論理的に表現する力に課題がみられる。 ⇒対象の比較から、共通点や相違点を挙げさせ、特徴や特色、対象同士の因果関係など視点を示して学習させ、科目ごとに項目のつながりを意識して、基本的な事項を捉えさせることが重要である。また、教科書等にある資料から必要な情報に気づき、その情報と既有知識を関連付けて考察する活動に加え、考察した内容を表現する活動を繰り返すことが大切である。
数学	・基礎的な計算に関する問題の正答率は高い。箱ひげ図について、図や用語の理解、複数のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断する問題の正答率は良好である。 ・事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて説明することに課題がある。 ⇒無答率が高いことから、必要以上に証明の書き方に拘ることなく、まずは図の中に等しい辺や角を書き込ませ、次にそれを箇条書きにし、最終的に文章へ繋げるという段階的なステップを踏ませることが重要である。また、不完全な証明や誤りのある証明を提示し、どこに論理の飛躍があるのか、なぜその根拠では不十分なのかを話し合う活動も有効である。
理科	・第2分野における観察・実験の技能、科学用語や科学的事象についての知識及び思考力・判断力の定着には一定の成果がみられる。 ・第1分野における知識・技能の定着には課題がある。 ⇒段階を一つ一つ踏んで知識・技能を確実に習得させていくとともに、授業と授業外学習で繰り返し活用させることで、知識・技能が定着するよう指導していくことが重要である。 ・科学的事象を的確に表現する力に課題がある。 ⇒自然の事物・事象を探究する場面で、生徒が表現したものを評価するだけでなく、問いの意図を理解しているか、知識・技能が身に付いているか、理科の見方・考え方を働かせて思考・判断・表現できているか、個々の生徒の課題を見取り、適切な指導を行う必要がある。
英語	・短い文や文章から概要や要点を読み取る力を見る問題の正答率は良好である。 ・話されている、あるいは書かれている情報や考えについて、目的や場面、状況に応じて理解する力が不十分である。文法事項の定着が不十分であることが原因で、書きたいことが書けない、または書いてあることが読めない、という状況がうかがえる。 ⇒様々な種類のまとまりのある文章に触れたり、まとまりのある英語を聞かせたりして、生徒が概要を捉えることができたかどうかの見取りが必要である。 ⇒文法は、生徒の発達段階に応じて、その働きを踏まえ段階的に指導したり、使用場面を工夫したりしながら、繰り返すことで定着を図ることが必要である。

I 令和8年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数	
全 日 制	4,795	3,380	(併設中学校からの進学者を含む。)
多 部 制	200	75	
定 時 制	560	46	
合 計	5,555	3,501	

○定員充足率 (%)	前年比 (ポイント)	
全日制の課程	70.5	+2.4
多部制の課程	37.5	-18.0
定時制の課程	8.2	-3.9

2 こうちフロンティア募集

	募集定員	受検者数	合格者数
全 日 制	415	293	273

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	93.2	—	全日制の課程	20	—

3 (1)A日程

	募集定員	受検者数	合格者数	
全 日 制	4,372	3,108	2,966	※全日制の受検者数及び合格者数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の数は含まない。
多 部 制	120	59	54	
合 計	4,492	3,167	3,020	

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	95.4	+3.6	全日制の課程	142	-134
多部制の課程	91.5	+2.7	多部制の課程	5	-6

(2)連携型中高一貫教育校に係る特別選抜

	受検者数	合格者数	
全 日 制	41	41	※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

4 B日程

	募集定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,370	111	100
多 部 制	146	21	17
定 時 制	560	49	40
合 計	2,076	181	157

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	90.1	+0.1	全日制の課程	11	-9
多部制の課程	81.0	-7.0	多部制の課程	4	+1
定時制の課程	81.6	-8.0	定時制の課程	9	+3

5 C日程

	募集定員	受検者数	合格者数
多 部 制	68	6	4
定 時 制	520	9	6
合 計	588	15	10

6 定員内不合格

	定員内不合格者数			
	こうちフロンティア募集	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和8年度	11	52	0	24

令和8年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学 校 名	学 科（科）名	入 学 定 員	こうちフロンティア募集				A日程				B日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数
			募 集 定 員 ア	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	A 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
室 戸	総 合	70	45	29	29	26	44	5	5	5	39	1	1	1	32	38	32
安 芸	普 通	120 (95)	—	—	—	—	95	34	34	34	61	3	3	3	37	73	62
	工 業（機土）	20 (20)	—	—	—	—	20	4	4	4	16	1	0	0	4	16	4
	工 業（機土）	20 (20)	—	—	—	—	20	0	0	0	20	0	0	0	0	20	0
	商 業（ビジネス）	40 (34)	—	—	—	—	34	27	27	27	7	1	1	1	28	15	34
城 山	普 通	70	—	—	—	—	70	20	19	18	52	2	2	2	20	50	20
山 田	普 通	80	—	—	—	—	80	52	52	52	28	6	6	5	57	23	57
	探 究（グローバル）	40	—	—	—	—	40	8	8	8	32	3	3	3	11	29	11
	商 業（ビジネス）	40	—	—	—	—	40	27	27	25	15	3	3	3	28	12	28
横 北	普 通	70	30	21	21	20	50	3	3	3	36	0	0	0	34	36	34
高知農業	農 業（農総）	40	—	—	—	—	40	38	37	38	2	0	0	0	38	2	38
	農 業（畜総）	40	—	—	—	—	40	51	51	40	なし	—	—	—	40	0	40
	農 業（森総）	40	—	—	—	—	40	25	24	31	9	1	1	1	32	8	32
	農 業（環土）	40	—	—	—	—	40	31	31	31	9	0	0	0	31	9	31
	農 業（食ビ）	40	—	—	—	—	40	46	46	40	なし	—	—	—	40	0	40
	農 業（生総）	40	—	—	—	—	40	52	51	40	なし	—	—	—	40	0	40
高知東工業	工 業（機械）	40	—	—	—	—	40	27	27	26	15	2	1	1	27	13	27
	工 業（機械システム）	40	—	—	—	—	40	10	10	10	30	0	0	0	10	30	10
	工 業（電子）	40	—	—	—	—	40	18	18	18	22	0	0	0	18	22	18
	工 業（電機）	40	—	—	—	—	40	17	17	17	23	4	4	3	20	20	20
岡 豊	普 通	200	—	—	—	—	200	212	208	200	なし	—	—	—	200	0	200
	普 通（芸術コース）	40	—	—	—	—	40	30	30	27	13	1	1	1	28	12	28
	普 通（体育コース）	40	—	—	—	—	40	40	40	39	1	0	0	0	39	1	39
高 知 東	総 合	200	—	—	—	—	200	151	148	144	56	24	24	23	167	33	167
高知工業	看護（看護）	30	—	—	—	—	30	18	18	17	13	1	1	1	18	12	18
	工 業（機械）	40	—	—	—	—	40	44	44	40	なし	—	—	—	40	0	40
	工 業（電気）	40	—	—	—	—	40	34	34	35	5	1	1	1	36	4	36
	工 業（情報）	40	—	—	—	—	40	43	42	40	なし	—	—	—	40	0	40
	工 業（工化）	40	—	—	—	—	40	28	28	31	9	5	5	5	36	4	36
	工 業（土木）	40	—	—	—	—	40	42	40	40	なし	—	—	—	40	0	40
	工 業（建築）	40	—	—	—	—	40	46	46	40	なし	—	—	—	40	0	40
	工 業（総工）	40	—	—	—	—	40	41	41	40	なし	—	—	—	40	0	40
高知追手前	普 通	240	—	—	—	—	240	206	203	202	38	1	1	1	203	37	203
	吾北 普 通	40	—	—	—	—	40	6	6	6	34	0	0	0	6	34	6
高知丸の内	普 通	140	—	—	—	—	140	164	164	140	なし	—	—	—	140	0	140
	チャレンジ A	10	—	—	—	—	10	7	7	7	—	—	—	—	7	3	7
	音 楽（音楽）	30	—	—	—	—	30	14	13	14	16	0	0	0	14	16	14
高知小津	普 通	240	—	—	—	—	240	242	240	239	2	0	0	0	239	1	239
	理 数（理数）	30	—	—	—	—	30	17	16	15	15	0	0	0	15	15	15
高知国際	普 通	200 (200)	—	—	—	—	200	204	202	200	なし	—	—	—	200	0	200
	国 際（グローバル）	80 (若干名)	—	—	—	—	若干名	7	5	5	なし	—	—	—	5	0	80
	DP	[20] (若干名)	—	—	—	—	[若干名]	[4]	[2]	[1]	なし	—	—	—	[1]	—	—
伊野商業	商 業（キャリア）	120	—	—	—	—	120	66	62	56	65	10	9	8	64	56	63
春 野	総 合	160	—	—	—	—	160	128	125	123	37	12	12	11	134	26	134
高 岡	普 通	70	—	—	—	—	70	25	24	19	51	5	4	4	23	47	23
高知海洋	水 産（海洋）	70	35	44	44	35	35	13	12	10	25	8	8	4	49	21	49
	船舶職員養成課程	[10]	—	—	—	—	[10]	[4]	[4]	[0]	[10]	[0]	[0]	[0]	[0]	[10]	[0]
須崎総合	普 通	120	—	—	—	—	120	85	85	83	37	1	1	1	84	36	84
	工 業（機械系）	20	—	—	—	—	20	17	17	15	5	0	0	0	15	5	15
	工 業（造船）	20	—	—	—	—	20	4	4	3	17	1	1	0	3	17	3
	工 業（電情系）	20	—	—	—	—	20	2	2	2	18	0	0	0	2	18	2
	工 業（電情）	20	—	—	—	—	20	9	9	8	12	0	0	0	8	12	8
	工 業（シ工系）	20	—	—	—	—	20	4	4	4	16	0	0	0	4	16	4
	工 業（住環）	20	—	—	—	—	20	15	15	15	5	1	1	1	16	4	16
佐 川	普 通	70	—	—	—	—	70	29	28	28	42	7	7	7	35	35	35
窪 川	普 通	70	45	20	20	20	50	19	19	19	31	0	0	0	39	31	39
樺 原	普 通	70	45	44	44	39	31	4	4	2	25	1	1	1	46	24	46
四 万 十	普 通	35	—	13	13	13	22	1	1	1	20	0	0	0	15	20	15
	普 通（自乗コース）	35	45	10	10	10	25	0	0	0	24	0	0	0	11	24	11

（注1） 安芸、高知国際、中村の（ ）内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。

（注2） 高知国際高校DPコース、高知海洋高校船舶職員養成課程の〔 〕は内数。

（注3） 横北、樺原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

（注4） 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

（注5） A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

No. 2 全日制

学 校 名	学科(科)名	入 学 定 員	こうちフロンティア募集				A日程				B日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数
			募 集 定 員 ア	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	A 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
大 方	普 通	70	45	38	38	37	33	7	7	5	28	1	1	0	42	28	42
幡多農業	農 業 (園シス)	40	—	—	—	—	40	19	19	19	21	0	0	0	19	21	19
	農 業 (アグリ)	40	—	—	—	—	40	18	18	18	22	1	1	1	19	21	19
	農 業 (グリーン)	40	—	—	—	—	40	17	17	17	23	0	0	0	17	23	17
	農 業 (コネィネー)	40	—	—	—	—	40	32	32	30	10	1	1	1	31	9	31
中 村	普 通	200 (161)	—	—	—	—	161	139	138	135	26	0	0	0	135	28	174
宿毛工業	西土佐 普 通	40	10	7	7	6	34	2	2	2	32	1	1	1	9	31	9
	工 業 (機械)	20	—	—	—	—	20	5	5	4	16	1	1	1	5	15	5
	工 業 (自動車)	20	—	—	—	—	20	16	16	15	5	0	0	0	15	5	15
	工 業 (建設)	20	—	—	—	—	20	21	20	20	なし	／	／	／	20	0	20
	工 業 (土木)	20	—	—	—	—	20	10	10	10	10	0	0	0	10	10	10
	工 業 (電気)	40	—	—	—	—	40	6	6	6	34	1	1	1	7	33	7
	工 業 (情技)	40	—	—	—	—	40	17	17	17	23	0	0	0	17	23	17
宿 毛	総 合	105	70	48	47	47	58	13	12	12	46	1	1	1	60	45	60
清 水	普 通 (未来)	70	45	20	20	20	50	3	0	0	26	2	2	2	46	24	46
県 立 計		4515 (4645)	415	294	293	273	4092	2837	2796	2686	1370	115	111	100	3100	1296	3244

高知商業	商 業 (総合マセ)	140	—	—	—	—	140	146	144	140	なし	／	／	／	140	0	140
	商 業 (社会マセ)	70	—	—	—	—	70	91	91	70	なし	／	／	／	70	0	70
	商 業 (情報マセ)	35	—	—	—	—	35	41	41	35	なし	／	／	／	35	0	35
	商 業 (スポマセ)	35	—	—	—	—	35	36	36	35	なし	／	／	／	35	0	35
市 立 計		280	—	—	—	—	280	314	312	280	0	0	0	0	280	0	280

合 計		4795 (4645)	415	294	293	273	4372	3151	3108	2966	1370	115	111	100	3380	1296	3524
-----	--	-------------	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知国際、中村の()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。

(注2) 嶺北、幡原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

(注3) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

(注4) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

令和8年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況(学校別)

学 校 名	学科(科)名	入 学 定 員	特別選抜			
			特 別 選 抜 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数
嶺 北	普 通	70	A日程定員内	11	11	11
幡 原	普 通	70	A日程定員内	4	4	4
四 万 十	普 通	35	A日程定員内	1	1	1
清 水	普 通 (自環コース)	35	A日程定員内	1	1	1
	普 通 (未来)	70	A日程定員内	24	24	24
合 計		280		41	41	41

令和8年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学 校 名	学科名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程				C日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数				
中 芸	普 通（昼間）	40	6	6	6	34	0	0	0	△	△	△	△	6	34	6	
	普 通（夜間）	40 [8]	△	△	△	40 [8]	5 [0]	5 [0]	5 [0]	35	1	1	1	6	34	6	[0]
高 知 北	普 通（昼間）	80	55	53	48	32	7	7	5	△	△	△	△	53	27	53	
	普 通（夜間）	40 [8]	△	△	△	40 [8]	9 [1]	9 [1]	7 [1]	33	5	5	3	10	30	10	[1]
合 計		200 [16]	61	59	54	146 [16]	21 [1]	21 [1]	17 [1]	68	6	6	4	75	125	75	[1]

（注1） 成人の〔 〕は内数

定時制

学 校 名	学科（科）名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程				C日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
室 戸	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	40	0	0	0	0	40	0 [0]
山 田	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	6 [0]	6 [0]	6 [0]	34	1	0	0	6	34	6 [0]
高知東工業	工 業（機械）	40 [8]	／	／	／	40 [8]	5 [0]	5 [0]	2 [0]	38	3	2	1	3	37	3 [0]
高知工業	工 業（機械）	40 [20]	／	／	／	40 [20]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	40	1	1	1	1	39	1 [0]
	工 業（電気）	40 [20]	／	／	／	40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]
	工 業（土木）	40 [20]	／	／	／	40 [20]	5 [1]	5 [1]	3 [1]	37	1	1	1	4	36	4 [1]
	工 業（建築）	40 [20]	／	／	／	40 [20]	4 [0]	4 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
高 岡	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	2	2	0	3	37	3 [0]
須崎総合	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	3 [0]	3 [0]	2 [0]	38	0	0	0	2	38	2 [0]
佐 川	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	4 [1]	4 [1]	4 [1]	36	0	0	0	4	36	4 [1]
大 方	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	2 [1]	2 [1]	2 [1]	38	0	0	0	2	38	2 [1]
宿 毛	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	7 [2]	7 [2]	7 [2]	33	0	0	0	7	33	7 [2]
清 水	普 通	40 [8]	／	／	／	40 [8]	2 [1]	2 [1]	2 [1]	38	0	0	0	2	38	2 [1]
県 立 計		520 [152]	／	／	／	520 [152]	42 [6]	42 [6]	35 [6]	485	9	7	4	39	481	39 [6]
高知商業	商業（商業）	40 [8]	／	／	／	40 [8]	8 [0]	7 [0]	5 [0]	35	2	2	2	7	33	7 [0]
合 計		560 [160]	／	／	／	560 [160]	50 [6]	49 [6]	40 [6]	520	11	9	6	46	514	46 [6]

（注1） 成人の〔 〕は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 出題する内容が一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和8年3月3日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,167人 (3,461人)	41人 (61人)	3,208人 (3,522人)

(注) ()内は令和7年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	25.0 (23.4)	23.1 (22.2)	24.4 (18.8)	22.3 (14.0)	21.9 (18.6)	116.8 (97.0)

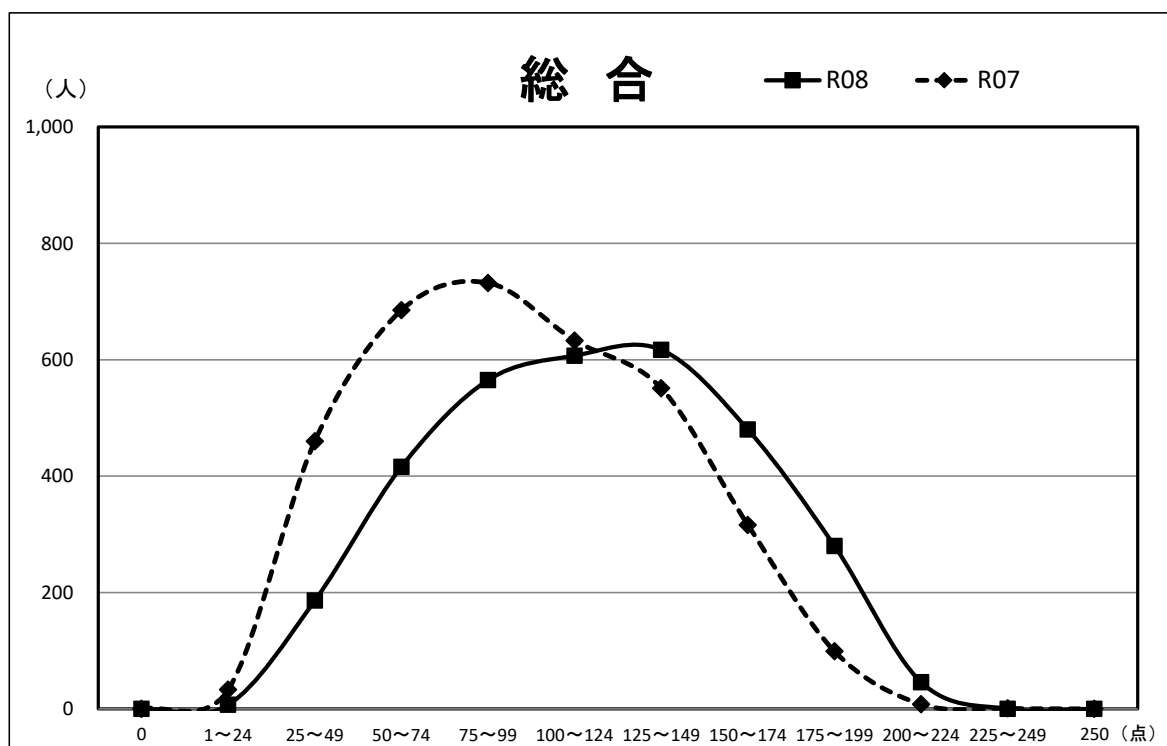
(注) ()内は令和7年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～ 4	0 (0)	65～ 69	84 (146)	130～134	131 (127)	190～194	37 (13)
5～ 9	0 (1)	70～ 74	106 (145)	135～139	142 (109)	195～199	31 (5)
10～14	2 (2)	75～ 79	104 (130)	140～144	112 (101)	200～204	18 (2)
15～19	2 (9)	80～ 84	105 (161)	145～149	98 (87)	205～209	10 (4)
20～24	3 (21)	85～ 89	125 (144)	150～154	115 (87)	210～214	9 (1)
25～29	14 (58)	90～ 94	123 (153)	155～159	93 (72)	215～219	6 (0)
30～34	18 (67)	95～ 99	108 (144)	160～164	102 (55)	220～224	3 (1)
35～39	45 (104)	100～104	115 (133)	165～169	87 (52)	225～229	0 (1)
40～44	46 (120)	105～109	123 (133)	170～174	83 (50)	230～234	0 (0)
45～49	63 (111)	110～114	108 (125)	175～179	87 (45)	235～239	0 (0)
50～54	67 (161)	115～119	116 (110)	180～184	62 (22)	240～244	0 (0)
55～59	75 (116)	120～124	145 (132)	185～189	63 (14)	245～250	0 (0)
60～64	84 (117)	125～129	134 (127)				

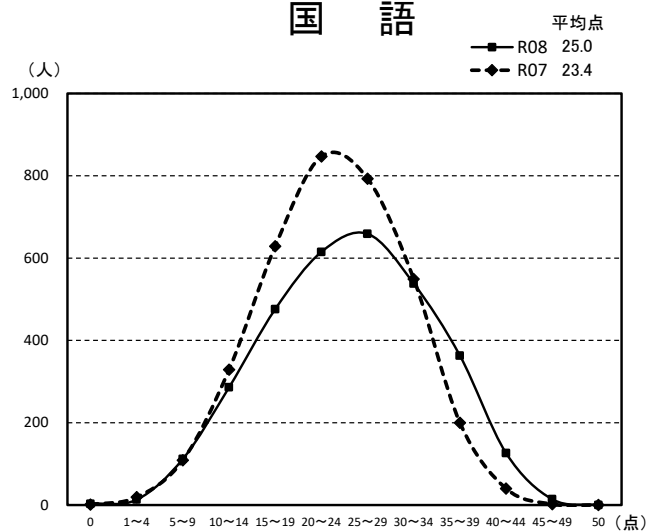
(注) ()内は令和7年度の値である。

平均点 116.8 (昨年度97.0)

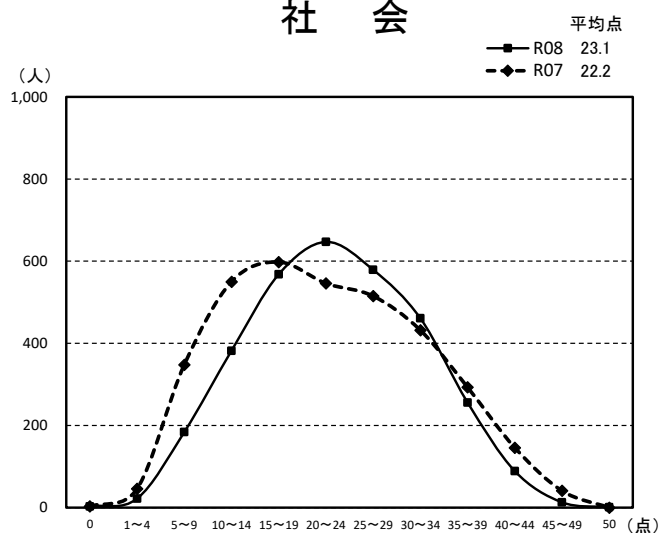


(4)教科別得点度数グラフ

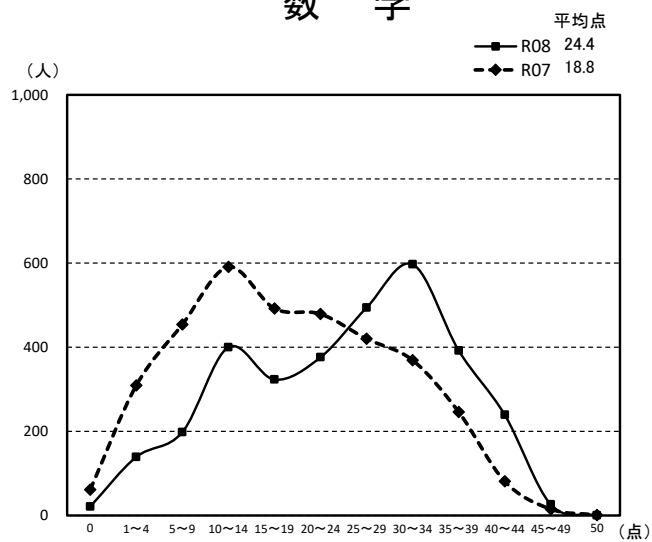
国 語



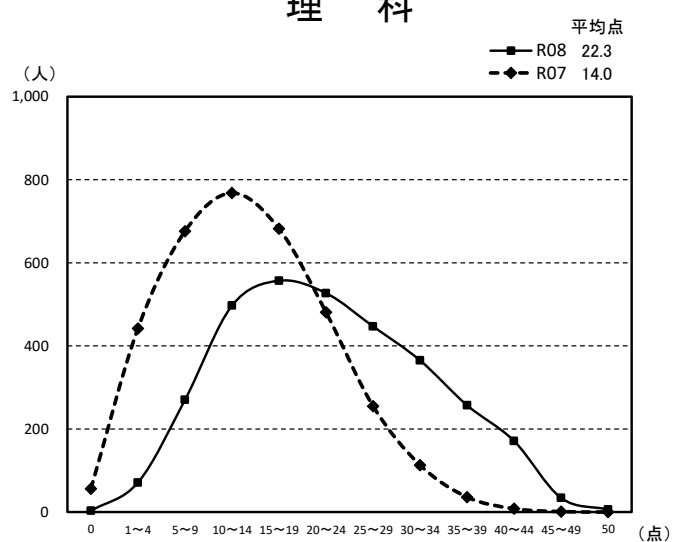
社 会



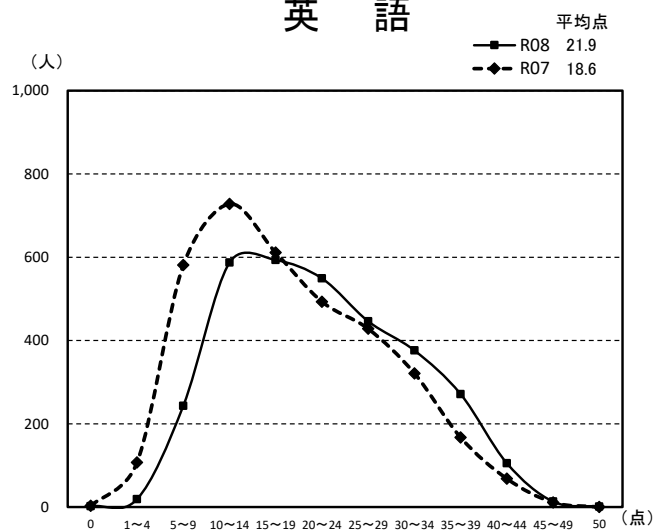
数 学



理 科



英 語



(5)過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	総 合
令和4年度	22.4	23.4	16.2	19.9	20.6	102.5
令和5年度	21.3	25.1	19.2	20.5	24.6	110.7
令和6年度	21.7	19.0	18.3	19.9	22.9	101.6
令和7年度	23.4	22.2	18.8	14.0	18.6	97.0
令和8年度	25.0	23.1	24.4	22.3	21.9	116.8
前年比増減	+1.6	+0.9	+5.6	+8.3	+3.3	+19.8

満点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
令和4年度	0	0	0	0	0	0
令和5年度	0	1	0	0	3	4
令和6年度	0	0	1	0	1	2
令和7年度	0	0	1	0	0	1
令和8年度	0	1	0	6	1	8
前年比増減	±0	+1	-1	+6	+1	+7

0点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
令和4年度	1	2	79	6	3	91
令和5年度	2	1	35	12	0	50
令和6年度	2	6	0	1	0	9
令和7年度	1	3	61	56	3	124
令和8年度	3	3	21	3	2	32
前年比増減	+2	±0	-40	-53	-1	-92

※令和6年度学力検査における、数学の2点の人数は28名

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
令和4年度	10 (0.27)	1,067 (28.87)
令和5年度	28 (0.79)	758 (21.39)
令和6年度	15 (0.41)	1,047 (28.51)
令和7年度	9 (0.26)	1,178 (33.48)
令和8年度	46 (1.44)	609 (19.01)
前年比増減	+37	-569

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜）の教科別状況

国 語

1 出題のねらい

言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能と、国語で正確に理解し適切に表現する思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化については、漢字の読み書き、書写、文法の基礎的な事項、情報と情報との関係に関する事項、伝統的な言語文化に関する事項などについての力をみるものとした。
- (2) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容を捉えたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (3) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確に捉えるとともに、文章の構成や論理の展開などに注意しながら、内容を正確に理解する力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は25.0点で、昨年度より1.6点上がった。行書の基礎的な書き方、情報の取り出しについては一定の力が認められる。文法の基礎的な事項、情報と情報の関係についての理解が十分とは言えない。また、目的に応じて文章の内容を把握して書くことに課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
平 均 点	25.0	23.4	21.7	21.3	22.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
言葉の特徴や使い方・ 漢字・書写・表現の技法	58.4	55.1	57.8	56.0	57.3
現 代 文	33.0	38.8	26.0	26.7	30.8
古 典	57.8	49.4	39.8	31.7	51.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞ 目的に応じて必要な情報に着目して内容を把握し、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する力を身に付けさせること。【☐ (三)】

文章中の情報を整理して内容を把握し、内容を解釈できているかを見る思考・判断・表現の力を問う問題であった。正答率は9.2%(32人)、無答率は5.7%(20人)、部分点29.2%(102人)。傍線部の主語は「建築」であるが、主語を「住まい手」に書き換え、筆者の考えを要約する問題である。誤答は大きく三つであった。

- ①主語が「建築」になっているもの 36.9%(72人)
- ②傍線部を含む段落をそのまま抜き出しているもの 20.5%(40人)
- ③主述が乱れているもの 9.7%(19人)

①と③については、問われている主語をもとに、文章中から必要な情報を取り出したうえで書くこと、②については、設問の情報を整理することができていないと考えられる。また、主語を書いていない解答が、全体の36%(127人)に上り、そのすべてが誤答や減点となっている。

短い文章から情報を取り出す問いに対しては、80%以上の高い正答率であることから、やや長い文章の情報を整理することが必要である。また、目的に応じて文章を書く際には、思考を整理し、考えを深め、自分の考えが適切に伝わるように表現を工夫する経験を充実させるとともに、主語を明確にすること、主述の乱れに留意することなど、文章を整える指導も図りたい。

問 題			正 答	正答率	無答率
一	(一)	1	こうさく	16.0	0.3
		2	した (う)	53.0	2.9
	(二)	1	奮起	33.2	14.6
		2	済 (む)	66.5	12.3
	(三)		14 (画)	83.4	0.6
	(四)		イ	75.6	0
	(五)		エ	83.9	0.3
	(六)	1	ウ	61.3	0.3
		2	イ	87.7	0.3
		3	ア	70.5	0.3
		4	を・て	9.5	2.3
		5	体言止め	59.9	3.4
二	(一)		エ	85.4	0.3
	(二)		生きながらえた建築	52.2	8.0
	(三)	(例)住まい手が、建築に愛情と敬意をもって、手入れをしながら、共に長い時間を過ごすこと。	9.2	部分点 29.2	5.7
	(四)		ウ	31.2	0.6
三	(一)	(例)筆者の考え方や主張に共感できたり、期待していた知見を得ることができたりすること。	13.5	部分点 22.1	6.9
	(二)	(例)筆者は、得るものがなかったという思いも読書から得たものであり、将来の読書に影響を与えていく可能性があると考えている。私も役に立たないと思っていた本が、後になって新たな考え方を与えてくれたことがあるので、今の読書は将来の読書に影響すると思う。	6.9	部分点 26.4	8.6
四	(一)		いとおしくて	84.2	0.9
	(二)		ウ	51.5	0.6
	(三)		ウ	42.4	0.9
	(四)		ア	53.0	0.3

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 349 人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国の古代から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は23.1点で、昨年度より0.9点上がった。基本的事項については一定の定着がうかがえ、単一の資料を読み取る力は身に付いているものの、全分野を通して、社会的事象の関連や本質を捉えることが十分でなく、資料から読み取った情報を、既習事項と関連付けて思考・判断・表現する力に課題がみられる。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
平 均 点	23.1	22.2	19.0	25.1	23.4

- (2) 正答率の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
地理的分野	54.8	48.9	36.8	65.7	54.3
歴史的分野	47.7	42.8	37.1	31.8	49.7
公民的分野	38.5	53.5	42.0	55.2	47.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

- ☞① 社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解させること。【23, 32(1)など】

23では、「加賀の一方向一揆」や「自治」についての正確な理解が十分でないことから、「自治ごとに守護大名を配置するようにした」など、「自治」の誤った使用や歴史事象とは関係のない解答がみられた。また、32(1)では、「主権」の意味を正確に捉えられていないことから、「国民主権」と解答するものも散見されるなど、用語を適切に活用できるまでの深い理解に課題がみられる。

歴史的な事柄や社会的事象を説明する際に必要な用語等をより深く正確に理解させるためには、分野の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることが重要である。例えば、対象を比較して共通点や相違点（類似や差異など）を見いださせたり、事象同士を因果関係（背景・原因・結果・影響など）で関連付けたりする視点を示しながら学習を展開することが大切である。

- ☞② 資料から必要な情報を読み取り、既有知識と関連付けて表現する力を付けさせること。【64】

64では、問題の意図を正しく捉えておらず、資料から読み取った必要な情報を既有知識と関連させて表現することが十分でないことから、「休日が週1日しかないから」など、資料から分かることだけを書き出した解答が多く見られた。

問題の意図を正しく捉え、資料から必要な情報を読み取り、既有知識と関連付けて表現する力を育成するためには、まずは学習の視点を示し、何を問われているか課題（問い）の共有を十分に行うとともに、教科書等にある資料から必要な情報に気付き、その情報と既有知識を関連付けて考察する活動に加え、考察した内容を表現する活動を繰り返すことが大切である。

問 題			正 答				正答率		無答率	
1	1	(1)	フォッサマグナ				54. 4		12. 6	
		(2)	記号	イ	県庁所在地名	高松市	46. 1		0. 6	
	2	ウ				65. 6		0. 3		
	3	ア				55. 6		0		
	4	(例) 15歳未満の人口の割合が低くなり、 65歳以上の人口の割合が高くなった。				47. 3		2. 0		
部分点 9. 7										
2	1	ア				53. 6		0		
	2	ウ → エ → ア → イ				14. 9		0		
	3	(例) 守護大名に代わり、信者たちが自治 を行った。				12. 0		17. 2		
		部分点 0. 3								
	4	ウ				78. 5		0		
5	エ				49. 9		0			
3	1	(1)	ア				45. 6		0. 6	
		(2)	エ				11. 7		0. 3	
	2	(1)	主権				24. 9		7. 2	
		(2)	イ				16. 6		0	
	3	ウ				61. 6		0. 3		
4	1	記号	C	宗教の名称	ヒンドゥー教	記号	32. 7	0		
						宗教	51. 9	1. 1		
	2	(例) 輸出額のほとんどを占める原油に経 済が依存しているから。				40. 4		6. 9		
		部分点 7. 4								
	3	イ				77. 9		0		
4	ウ				75. 6		0. 3			
5	1	陸奥宗光				35. 0		15. 8		
	2	(例) 日清戦争に比べ、日露戦争では多く の戦死者を出し、戦費が増え、税の負担も 大きくなったが、ロシアから賠償金が得 られなかったから。				37. 6		7. 7		
		部分点 18. 9								
	3	エ				75. 9		0		
	4	二十一か条の要求				39. 0		18. 6		
5	イ				78. 2		2. 0			
6	1	エ				41. 3		0. 3		
	2	ア、エ、カ				58. 2		0. 3		
	3	a	共助		b	公助		42. 4		
	4	1点目	(例) 男女で月給に差がある。				80. 0		5. 4	
		2点目	(例) 勤務時間が、週 40 時間を超 えている。				3. 2		6. 6	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 349 人分の答案を対象として算出した。

数 学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」から出題し、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能と、数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりする力をみることがねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、図形の内容、図形の性質や関係についての理解の程度、数学的な推論に基づいて考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数を用いて事象を捉え表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「データの活用」では、目的に応じて収集した資料を処理し、その資料の傾向を読み取り判断する力、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は24.4点で、昨年度より5.6点上がった。数と式、データの活用の領域では、基礎的・基本的事項について一定の力が付いていると思われるが、図形、関数の領域では十分とは言えない。また、文字を用いて表現する力も不十分であり、思考・判断・表現する力を問う問題において、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて説明できないといった課題がみられる。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
平均点	24.4	18.8	18.3	19.2	16.2

- (2) 正答率の推移

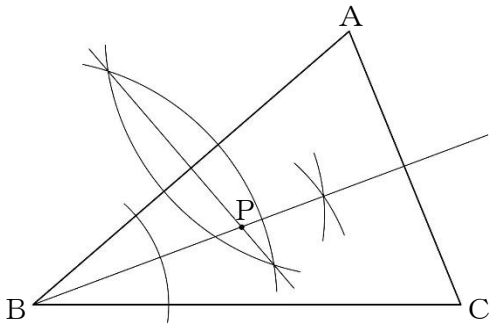
年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
数と式	67.9	45.8	53.2	50.3	44.3
図 形	24.8	15.7	11.0	23.0	13.3
関 数	31.2	25.9	11.0	29.9	33.1
データの活用	52.4	48.6	34.8	48.7	35.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

☞ 思考の過程や判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるようにさせること。【6】(1)

正答率が7.4%と低く、4人に1人が無答であることから、自分の考えを論理立てて説明することを苦手とする生徒が多い。誤答は大きく4つのカテゴリーに分類される。1つ目は、「点Aと点Bを重ねたとき、大きさがぴったり重なる」や、頂点Dを共有しているだけで、「角Dは共通な角」など、論理的な裏付けなしに、見た目の印象で説明しているもの。2つ目は、錯角と書くべきところを同位角と書いたり、角を頂点1文字で表し、どの角を指すか不明瞭であったりするなど、正しい数学用語や記号を用いて表現できていないもの。3つ目は、対応する辺や角が一致していないもの。4つ目は、平行線の錯角は等しいことや、二等辺三角形の底角は等しいなどの図形の性質を断片的に理解していても、それらを連結させて結論を導くことができていないものである。

課題解決の方法としては、まずは図の中に等しい辺や角を書き込ませ、次にそれを箇条書きにし、最終的に文章へ繋げるという段階的なステップを踏ませることで、記述への心理的な障壁を取り除く。また、不完全な証明や誤りのある証明を提示し、どこに論理の飛躍があるのか、なぜその根拠では不十分なのかを話し合う活動も有効である。「対応」の意識化を促す指導を心がけ、対応する辺や角を、図の中に色分けして示したり、図形を構成する辺や角の位置関係に着目し、図をかき直したりすることで、対応する辺や角を正しく認識する力を養うようにしたい。

問 題		正 答		正答率	無答率
1	(1)	①	3	91.1	0.3
		②	$\frac{x-8y}{15}$	83.9	0.9
		③	$-12a^3$	75.4	1.1
		④	$3\sqrt{3}$	80.8	1.7
	(2)	ウ, エ		72.8	0.3
	(3)	$x=5, y=-1$		74.8	6.0
	(4)	$x=\frac{-7\pm\sqrt{33}}{2}$		44.7	10.0
	(5)	$-12 \leq y \leq 0$		42.1	9.2
	(6)	25 度		24.6	10.6
	(7)	$\frac{3}{8}$		40.4	10.3
	(8)	(例) 		38.1	17.8
2	(1)	①	3.7 冊	57.9	1.1
		②	ウ	66.7	0.6
	(2)	ア, エ		44.4	0.9

(次のページに続く)

問 題		正 答		正答率	無答率
3	(1)	12		40.4	8.0
	(2)	ア	$n-1$	69.3	5.2
		イ	$n+1$		
		ウ	$n-7$	67.1	5.7
		エ	$n+7$		
		オ	n^2-1	46.1	8.6
		カ	n^2-49		
4	(1)	イ		59.4	1.1
	(2)	3 cm		25.5	20.3
	(3)	$60\pi \text{ cm}^3$		2.3	28.4
5	(1)	$a=\frac{1}{4}$		55.9	8.0
	(2)	$b=-\frac{1}{8}$		26.6	13.8
	(3)	$-3+\sqrt{17}$		0	36.4
6	(1)	【証明】(例) △ADEと△BCDにおいて 平行四辺形の対辺は等しいから AD=BC……………① 仮定より DE=CD……………② AD∥BCより、錯角が等しいから ∠ADE=∠CED……………③ CD=DEより、△CDEは二等辺三角形となり底角は等しいから ∠CED=∠ECD……………④ ③、④より ∠ADE=∠BCD……………⑤ ①、②、⑤より 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい。 したがって △ADE≡△BCD		7.4	25.5
				部分点 29.5	
	(2)	$\frac{15}{2} \text{ cm}$		16.0	28.9

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した349人分の答案を対象として算出した。

理 科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象についての理解、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能と、観察、実験などを行って自然の事物・現象を科学的に探究する力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、音の性質、身のまわりの物質とその性質、原子の成り立ちとイオン、化学変化と電池、電流・電圧と抵抗、磁界中の電流が受ける力、電磁誘導と発電などについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、植物の体の共通性と相違点、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、天体の動きと地球の自転・公転、太陽の様子、葉・茎・根のつくりとはたらきなどについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は22.3点と昨年度に比べ8.3点上がった。第2分野における観察・実験の技能、科学用語や科学的事象についての知識及び思考力・判断力の定着には一定の成果が見られるものの、第1分野においては十分ではない。また、実験で行う必要がある操作や、観察された事象が生じた原因を説明する際に、問題文の指示を正しく読み取ったうえで解答を適切に文章で表現する力に課題がみられる。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
平 均 点	22.3	14.0	19.9	20.5	19.9

- (2) 正答率の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
第1分野	36.1	18.4	37.9	48.1	30.2
第2分野	51.3	43.3	47.0	39.8	47.9

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 思考・判断・表現する力の基盤として、知識・技能を確実に定着させること。【1】2(2)・4(1), 【3】3】

第1分野における知識・技能を問う問題の中で、音が空気中を伝わる速さを求める問題、記号の並べ替えによりガスバーナーの点火の手順を解答する問題、塩化銅が水の中で電離しているようすを式で表す問題の三題の正答率が低い。授業と授業外の学習で生徒に知識・技能を繰り返し活用させ、基礎・基本の確実な定着を図りたい。【3】3では、「 $2\text{Cu}^+ + \text{Cl}_2^-$ 」のように、イオン式を正しく書けていない解答、電離により生じるイオンの個数の関係を正しく表現できていない解答が目立った。銅イオンや塩化物イオンのイオン式を確実に習得させたうえで、組成式から塩化銅を構成する原子の種類やそれらの数の比の関係を適切に判断し、イオン式や数字、記号を使って電離式を正しく表現できるよう、段階を踏んで確実に指導していく必要がある。

- ☞② 科学的事象を的確に表現できるようにさせること。【3】1, 【4】3(2), 【5】3(1)】

実験操作や観察された事象が生じた理由を、適切に表現できていない誤答が目立った。特に、葉を袋内に密閉して日光が当たる場所に置くと、袋の中の二酸化炭素濃度が低くなった理由について説明する【4】3(2)では、「光合成により葉が二酸化炭素を吸収して酸素を放出したため」のように、問題文の指示に従えていない解答、光の有無に関係なく植物が呼吸していることを表現できていない解答が多数を占めた。

自然の事物・事象を探究する場面において、生徒が表現したものを評価するだけでなく、問いの意図を正しく理解できているか、基本となる知識・技能が身に付いているか、理科の見方・考え方を働かせて適切に思考・判断・表現することができているか等について、生徒一人一人の状況を見取り、個々の課題に応じて適切に指導することが大切である。

問 題			正 答					正答率	無答率	
1	1	(1)	え → あ → う → い					40.4	0	
		(2)	X	イ	Y	ア	Z	ウ	63.6	0
		(3)	双子葉類					61.0	4.6	
	2	(1)	イ					67.6	0	
		(2)	338 m/s					38.7	8.0	
	3	(1)	イ					44.7	0.3	
		(2)	示準化石					66.1	5.2	
	4	(1)	イ → ウ → ア → オ → エ					24.4	0	
(2)		エ					32.4	0.9		
2	1	(例) 周囲に比べて温度が低いから。					76.8	4.0		
	2	18 時 16 分					17.5	6.0		
	3	あ	7.2					45.6	12.3	
		い	39600					22.3	18.9	
3	1	(例) 精製水でステンレス電極をよく洗う。					20.6	6.6		
	2	非電解質					79.1	4.9		
	3	$\text{CuCl}_2 \longrightarrow \text{Cu}^{2+} + 2\text{Cl}^-$					20.1	5.2		
	4	(1)	イ					47.0	0.3	
		(2)	1.68 g					35.2	10.6	
4	1	ウ					62.5	0		
	2	イ					53.0	0.9		
	3	(1)	㊸	G と H				67.0	0	
			㊹	G と I				76.5	0	
		(2)	(例) 光合成によって吸収した二酸化炭素の量が，呼吸によって放出した二酸化炭素の量を上回ったから。					21.2	7.7	
5	1	あ	ア		い	イ		26.6	0	
	2	㊸，㊹					12.3	2.6		
	3	(1)	(例) コイルの内部の磁界が変化するから。					12.9	17.8	
		(2)	ウ					52.1	0.9	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 349 人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

英語の特徴やきまりに関する知識及び技能と、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域における、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり話の概要を捉えたりする力、相手からの質問に答えたりする力などをみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、日常的な話題について、書かれたものから必要な情報を読み取ったり文章の概要を捉えたりする力、社会的な話題について、文章の要点を捉える力などをみるものとした。
- (3) 「書くこと」については、正しい語順で文を構成する力、場面や状況に応じて適切な語句や文を選んだり書いたりする力、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを伝えたり、社会的な話題に関して考えたことを書いたりする力などをみるものとした。

2 結果の概要

平均点は21.9点で、昨年度より3.3点上がった。どの領域においても昨年度より点数が上回っている。短いやり取りや文章、文の要点や概要を捉えることは概ねできているが、物語や社会的な話題に関する文章の要点を捉える力が十分でない。また、聞くことにおいても、話の概要を捉えることに課題がある。書くことにおいては、書いて伝えるために必要な情報を聞き取ったり読み取ったりすることができていないことから、求められていることを書いて表現することが難しいようである。また、意見や考えの構築や、正確に書いて伝える力が不十分である。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
平 均 点	21.9	18.6	22.9	24.6	20.6

- (2) 正答率の推移

年 度		R 8	R 7	R 6	R 5	R 4
理解の能力	聞くこと	66.3	46.6	72.0	58.2	53.8
	読むこと	60.7	50.5	55.8	58.0	44.3
表現の能力	書くこと	18.6	17.7	20.0	29.3	23.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① コミュニケーションを行うために必要な情報や考えを聞いて捉える力をつけさせること。【1D】

英語で話された内容を聞き取り、質問に書いて答える問題に対する解答のうち、「設問に反応しているが設問を理解していない」と考えられる解答が全体の43%であり、そのうちの37%が、話された文の一語を聞き間違え、その語を取り上げて解答していた。設問では最初に“What is your favorite item?”と問いかけており、その後“My favorite item is my watch.”と話が続いているが、誤答ではitemをidolと聞き間違え、好きなスポーツ選手やタレントについて答える誤答が見られた。一語一語などの特定の部分にのみにとらわれることなく、文脈や話の流れから質問の意図や内容の概要を捉える力を育成することが重要である。

- ☞② 文法事項の導入や指導の工夫と、コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせること。【42】

英語で書かれた文章を読んで、その内容に対する自分の考えを述べる問題において、「文法や使用語句などに誤りがありわかりにくいところがある」と判断された解答が全体の約24%であった。具体的には、Cleaning is ～.やTo clean is ～.と表現すべきところをClean is ～.とする動名詞・不定詞の用法の誤りや、for themではなく、for they / for theirとする代名詞の用法の誤りが見られた。また、主語と動詞の一致の誤り、助動詞の欠如、基本的な語のスペリングミス、大文字・小文字の使い分けの誤用も見られた。このことから、文法事項や基本語彙の確実な定着を図るとともに、言語活動を通して繰り返し活用する場面を設定することが必要である。また場面や状況を正確に捉え、文章の内容を踏まえて情報や自分の考えを整理しながら表現する活動を取り入れることや、場面・状況に応じて主語や動詞を適切に使い分けたり、伝えたい内容に応じた表現を選択したりする活動を充実させることが必要である。

問 題			正 答	正答率	無答率
1	A	No. 1	ウ	98.3	0.3
		No. 2	ア	80.2	0.3
		No. 3	イ	79.4	0.3
	B	No. 1	イ	57.0	0.3
		No. 2	ア	53.0	0.3
	C	No. 1	エ	37.0	0.6
		No. 2	ウ	59.0	0.9
D		(例) My favorite item is my pen which my sister gave to me. It is very cute and I use it every day.	1.7 部分点 25.5	20.3	
2	1	(1)	head	14.3	22.6
		(2)	share	2.3	32.7
	2	(1)	long have you played the piano	73.3 部分点 4.0	0.6
			(2)	one of the most beautiful castles in	17.8 部分点 1.1
		(3)		the flowers will make her happy	33.8 部分点 3.4
			3	(1)	ウ
	(2)	エ		57.0	0.3
	3	1	イ	82.8	0.3
2		ウ	86.5	0.3	
3		ウ	39.0	0.3	
		オ	73.9	0.9	
4		(1)	イ	66.7	0.3
		(2)	ア	37.5	0.3
		(3)	イ → ウ → ア → エ	25.2	0.6
4	1	1 文目 (例) Anime is very popular among junior high school students in Japan.	15.2 部分点 27.2	24.9	
		2 文目 (例) They watch anime movies and use things with their favorite characters on them.	8.0 部分点 26.6	30.9	
			2	(例) I think it is necessary for students to clean their own school. They can learn how to take care of things and how to help each other.	1.1 部分点 51.1

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 349 人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内 1－7－5 2

電 話 (088) 821-4850

F A X (088) 821-4547